

1

かなづかい

今日の漢字

☆ 次の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなもひらがなで正しく書きなさい。

- (1) アフリカ象の群れ。
- (2) 時間を有効に使う。
- (3) 枝ぶりのよい松の木。
- (4) 山田夫妻と食事をする。
- (5) 体操の指導を受ける。
- (6) 試合に参加する。
- (7) 一時間目を欠席する。
- (8) さまざまな種類がある。
- (9) テストにゴウカクする。
- (10) 子どものコセイをのばす。
- (11) あれた土地をタガヤス。
- (12) ココロザシを高くもつ。
- (13) 父は外科のイシだ。
- (14) まちがいをシュウセイする。
- (15) 解決はヨウイではない。
- (16) 妹とルスバンをする。
- (17) 車をイドウする。
- (18) ケツエキガタを調べる。
- (19) 入場をキセイする。
- (20) 今までのケイケンを生かす。

〓 〓

ポイント

★ 次の表の「 〓 」に、下のらんの□に共通してあてはまるひらがな一字を、上のらんのひらがなから選んで書き入れなさい。

「ず」・「づ」		「じ」・「ぢ」		「お」・「う」		「は」・「へ」・「を」		
(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓	〓
いた□ら。 だい□。	みか□き。 こ□つみ。	はな□。 ち□む。	お□ぞうさま。 □めん。	かきご□り。 大ど□り。	おと□さん。 おと□と。	ぼく□長男だ。 こんにち□。	東京□旅行する。 学校□行く。	本□読む。 顔□あらう。

ガイド

- ☆ かなづかいの決まり
発音どおりに書くのが原則だが、例外もある。
- ① 「何は・何へ・何を」の「は・へ・を」は、発音は「ワ・エ・オ」だが、「わ・え・お」と書かない。
 - ② 才段だんの音をのばす場合は「う」と書くが、「お」と書く場合もある。
・「う」と書く場合
おとうさん(お父さん)
おうさま(王様)
・「お」と書く場合
こおり(氷)
おおい(大きい)
 - ③ 「ジ・ズ」と発音するものは、ふつう「じ・ず」と書くが、次の場合は「ぢ・づ」と書く。
・二つの語が合わさる場合
はなぢ(鼻+血)
・音が重なる場合
ちぢむ・つづく

『 次のうち、かなづかいの正しいほうを選び、○をつけなさい。』

□ (1) 今日は おねいさん おねえさん の誕生たんじょうび日だ。

□ (2) 弟が いたづら いたづら をする。

□ (3) 赤あかずきんと おうかみ おおかみ のお話。

□ (4) くくぎを かなづち かなづち で打つ。

□ (5) 髪かみの毛が ちぢれて ちぢれて しまった。

② 次の——線の漢字の読みがなを、かなづかいに注意して、ひらがなで書きなさい。

□ (1) はだかの王おう様の物語。

□ (2) 池に氷こおりがはる。

□ (3) 大おほ通りを直進する。

□ (4) 公立こうりつの学校に通う。

□ (5) 家から駅えきまで遠い。

□ (6) 妹いもうとといっしょに遊ぶ。

□ (7) 地ち面めんがゆれる。

□ (1) □ (2) □ (3) □ (4) □ (5) □ (6) □ (7)

□ (8) 底そこ力を出す。

□ (9) 身み近な場所ところで遊ぶ。

□ (10) 自みづか信のある科目だ。

□ (11) 小こ包づつがとどく。

□ (12) 建物のあ面を開く。

□ (13) どこまでもつ続づく道。

□ (14) みそは大豆まめから作られる。

□ (8) □ (9) □ (10) □ (11) □ (12) □ (13) □ (14)

③ 次の文中には、かなづかいがまちがっている部分それぞれ一か所あります。まちがっているかなの右側に——線を引き、正しいかなを「」に書きなさい。

□ (1) 「こんばんわ。」とあいさつをする。

□ (2) ケーキを一人に一個つつ買ってこよう。

□ (3) 書き初はじめをするためにすづりで墨すみをする。

□ (4) 肉のかんずめと魚のみそづけを食べた。

□ (5) 犬が近ちかずいたのにきづかなかった。

□ (6) だいじなセーターがちじんでしまった。

□ (7) いぢわるなことはしないようにする。

□ (1) □ (2) □ (3) □ (4) □ (5) □ (6) □ (7)

言葉の学習

『今日の漢字』

(19) 「キセイ」と読む語には同音異義語が多いので注意する。

・帰省（故郷に帰ること）

と。

・規制（何かを制限すること）

と。

・規正（悪いところ、不都合な点を正しく直すこと）